

経済同友会「パラスポーツ運動会」を開催

初めての経済同友会「パラスポーツ運動会」が2017年11月13日、東洋大学総合スポーツセンター（東京都板橋区）で開かれた。本会会員の企業経営者と社員が参加し、体験を通してパラリンピック競技への理解を深めた。その模様を紹介する。

「パラスポーツ運動会」は、東京パラリンピック開催まで1000日の節目を迎える11月29日を前に企画された。経営者が社員と共にパラスポーツを体験し、パラリンピックの成功に向けて機運を高め、運営が脆弱なパラ競技団体への支援につなげるのが目的だ。



小林喜光代表幹事

開会式では、小林喜光代表幹事が「東京オリンピック・パラリンピック2020委員会はさまざまな活動を展開してきた。今後もパラリンピックの成功を全力でサポートする」と挨拶。東京オリンピック・パラリンピック2020委員会の新浪剛史委員長も「東京パラリンピックでは観客席を満員にして、日本が成熟した社会であることを世界にアピールしたい。パラリンピアンと所属団体への支援をお願いします」と挨拶した。



新浪剛史委員長

その後、参加者を代表してパラアスリートの谷真海氏（サントリーホールディングス）が挨拶。東京オリンピック・パラリンピック2020委員会の南壮一郎副委員長による選手宣誓に続いて競技が始まった。本会会員である企業経営者16社17人が、自社の社員計146人を率いて4種目のパラスポーツに挑戦した。

参加チーム一覧		※敬称略。役職は11月13日当時
代表幹事	小林 喜光	（三菱ケミカルホールディングス 取締役会長）
副代表幹事	市川 晃	（住友林業 取締役社長）
副代表幹事代理	程 近智	※同社からは佐藤建取締役専務執行役員も参加 （アクセンチュア 取締役相談役）
東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員長	東 裕二	（フューチャーアーキテクト 取締役社長 CEO）
	新浪 剛史	（サントリーホールディングス 取締役社長）
	大西 賢	（日本航空 取締役会長）
	高島 宏平	（オイシックスドット大地 取締役社長）
	大川 文昭	（あいおいニッセイ同和損害保険 取締役専務執行役員）
	奥村 洋治	（フジタ 取締役社長）
東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長	久慈 竜也	（久慈設計 取締役社長）
	志岐 隆史	（全日本空輸 取締役副社長執行役員）
	松本 順	（みちのりホールディングス 取締役社長）
	南 壮一郎	（ビズリーチ 取締役社長）
	吉松 徹郎	（アイスタイル 取締役社長兼 CEO）
東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 メンバー	荒木 秀文	（太陽工業 取締役社長）
	平賀 暁	（マーシュ ブローカー ジャパン 取締役会長）



【第1種目】ボッチャ

赤と青のボールを各チームが6球ずつ投げ合い、ジャックボールと呼ばれる白い球により近付けたチームが勝つ。ボールを操るテクニックはもちろんだが、戦術も勝利の鍵を握る。パラリンピックの中でも重度障がい者が出場できる競技である。



【第2種目】ゴールボール

視覚障がい者が対象のパラリンピック競技である。アイシェード（目隠し）を着けたプレイヤーが3対3で、敵のゴールめがけてボールを投げ合う。ボールには鈴が入っており、その音や仲間の声などを頼りにプレーをし、得点を競い合う。





競技では、和気あいあいとした中でも真剣勝負が展開され、珍プレー・好プレーが次々に飛び出した。そのたびに会場からは拍手と歓声が沸き起こった。

閉会式では同率優勝を果たしたアクセンチュアとオイシックスドット大地、そして同率3位となった住友林業とサントリーホールディングスに、東京オリンピック・パラリンピック2020委員会の高島宏平委員長から表彰状と副賞が授与された。閉会の挨拶で大西賢委員長は、「本日本体験したパラスポーツの面白さをぜひ広く発信していただきたい。そして、家族や友人を誘って、パラ競技を応援しに行っていただきたい」と語った。

参加者がパラスポーツの魅力を実感した運動会。東京パラリンピックに向けた取り組みは今後も続く。



大西賢委員長

●結果発表●

同率1位 アクセンチュア
オイシックスドット大地
同率3位 住友林業
サントリーホールディングス



同率1位の
各チームを表彰する
高島宏平委員長

【第3種目】車いすポートボール

パラリンピック競技である車いすバスケットボールを、未経験者でも取り組みやすいようにポートボール形式にアレンジした競技。車いすを操りながら、ボールを台の上に乗った味方のゴールマンに向けてシュートする。バスケットボールが苦手な人も気軽に楽しめる。



【第4種目】車いすリレー

パラリンピックの種目にはないが、バスケットボール用車いすでリレーを競うプログラム。この日は4チームずつ実施。車いすを操るコーナリングテクニックやスピードもさることながら、次走者へのタッチが最大の鍵となる。チームワークがものをいう競技である。

